



北海道大学 × SDGs



北海道大学低温科学研究所
環オホーツク観測研究センター

2024 年度低温科学研究所共同研究集会

砕氷巡視船そうやを用いたオホーツク海の海氷（流氷）観測研究の次期 10 年構想

コンビナー：西岡 純・豊田威信

趣旨

北海道大学低温科学研究所では1996年より海上保安庁第一管区と共同研究を実施し、砕氷巡視船「そうや」を用いた冬季南部オホーツク海の海氷域の観測を四半世紀を超えて継続して来た。これまでに国内の多くの研究者がこの観測機会を生かし、海氷の関わる海洋物理と生物地球化学過程や、季節海氷域が気候に与える影響など数々の成果に結びつけてきた。さらに「そうや」観測を活かした研究から、数々の研究が南極・北極の両極域の研究に発展した。2025年にこの「そうや」観測が発足後30年を迎える。本研究集会では、「そうや」観測を利用してきた関係者が一堂に集まり、「今後どのように「そうや」観測を維持し発展させ次世代の研究に活かしていくのか」を議論し、次の10年スケールで「そうや」観測を利用して展開できる季節海氷域のサイエンスを話し合う。

プログラム

日時：2024 年 10 月 22 日（火）13:00～17:30

場所：低温科学研究所 2F 会議室＋オンライン

◆はじめに

13:00－13:10 西岡純（北海道大学）趣旨説明

13:10－13:35 大島慶一郎（北海道大学）

巡視船「そうや」を用いた海洋・海氷観測研究の立ち上げ

13:35－14:00 豊田威信（北海道大学）

巡視船「そうや」を用いたオホーツク海海氷観測研究の現状と課題

◆提案・ビジョン（招待講演者 6 名）

14:00－14:25 木村詞明（東京大学）

海氷について何が知りたいのか：衛星リモートセンシングの視点から

14:25－14:50 川口悠介（東京大学）

砕氷船「そうや」を用いたオホーツク海氷域における海洋物理観測の実績と今後の展望について

14:50－15:10 休憩

15:10－15:35 漢那直也（東京大学）、野村大樹（北海道大学）

オホーツク海の海氷が関わる物質循環研究

15:35-16:00 早稲田卓爾 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科)

オホーツク海での波浪海水観測

16:00-16:25 伊東素代 (JAMSTEC)

「みらい II」における海水観測の展望

16:25-16:50 宇都正太郎 (北海道大学)、松沢孝俊 (海上技術安全研究所)

氷工学研究を目的とした巡視船「そうや」実船実験の実施及び今後の展望

◆総合討論

16:50-17:30 司会：西岡純、豊田威信

そうや観測の今後の在り方について